

三次市三川合流部周辺河川環境整備計画

第3次重点プロジェクト

巴峡みよし

～ひと・まち・かわの息吹が聞こえる郷づくり～

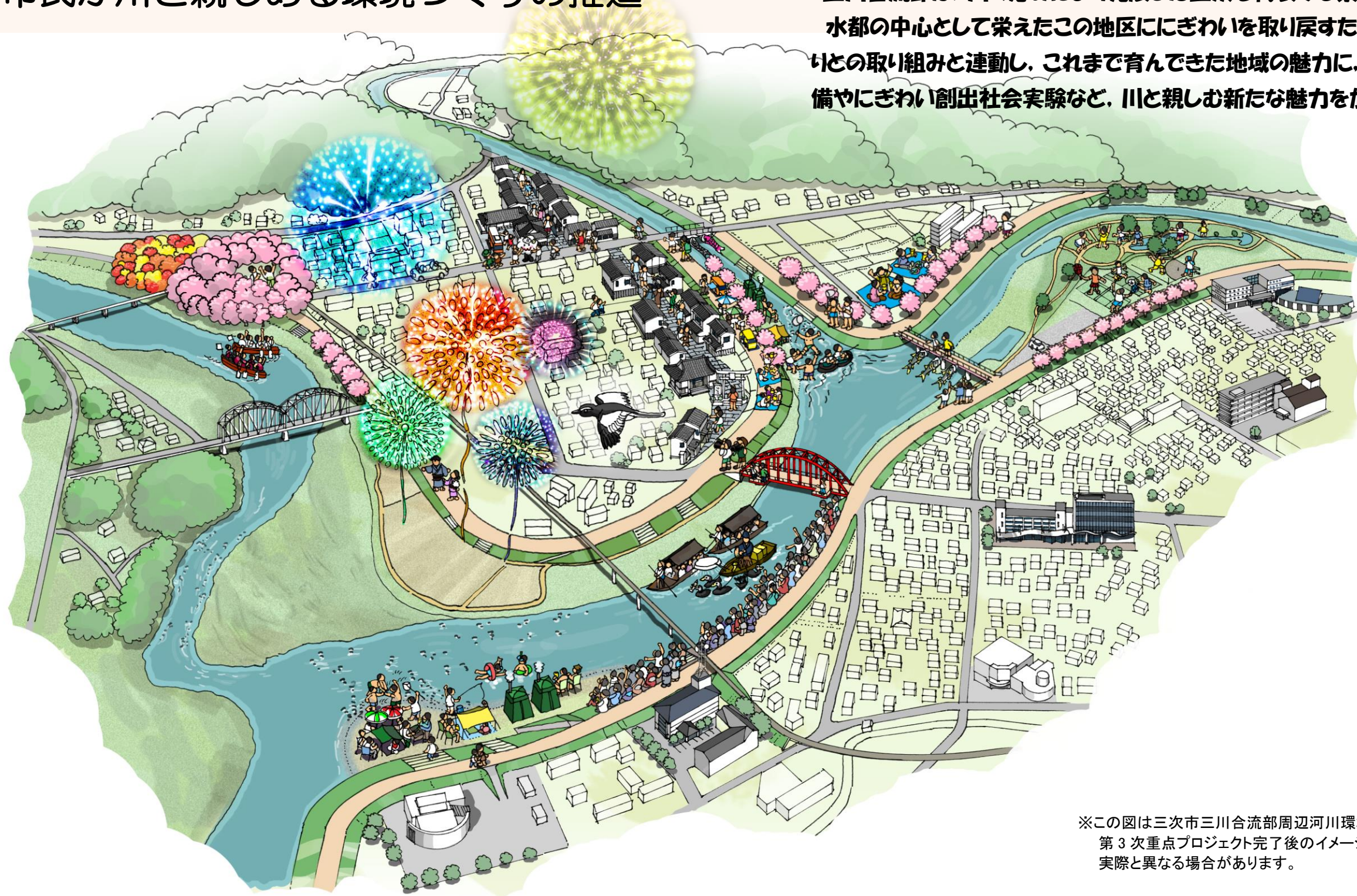
三 次 市

令和4年5月

～歴史・伝統・文化・景観など三次らしさを活かしたにぎわい・魅力づくり～

・市民が川と親しめる環境づくりの推進

三川合流部は、川の恵みにより発展した三次を代表する景観の1つです。水都の中心として栄えたこの地区ににぎわいを取り戻すため、各まちづくりとの取り組みと連動し、これまで育んできた地域の魅力に、親水施設の整備やにぎわい創出社会実験など、川と親しむ新たな魅力を加えます。



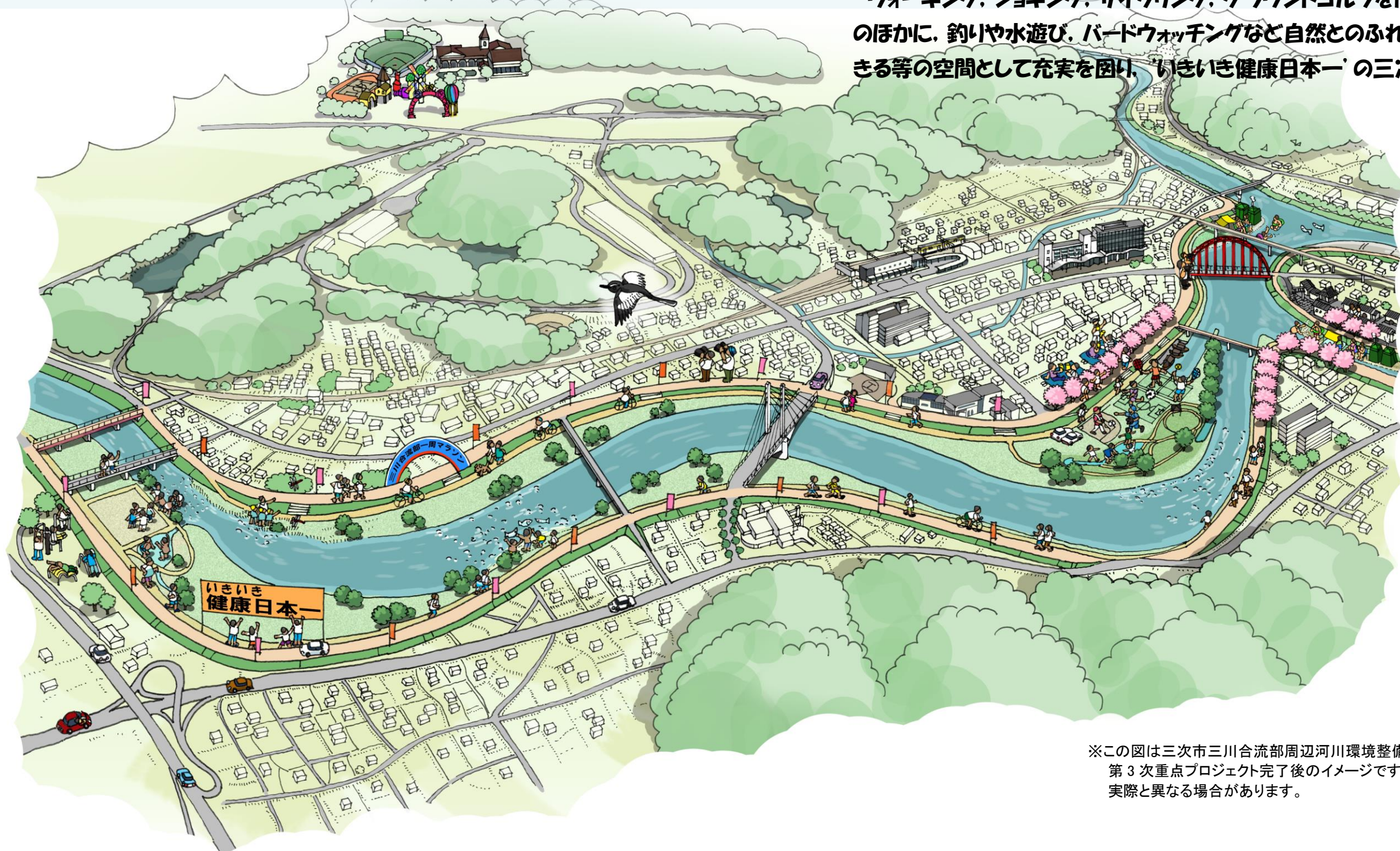
※この図は三次市三川合流部周辺河川環境整備計画
第3次重点プロジェクト完了後のイメージです。
実際と異なる場合があります。

～歩いて元気に暮らすまちづくり～

・“スポーツのまち みよし”の実現

三川合流部の水辺は、三次市の人口の半数近くが居住する市街地の中央にある広い面積の自然豊かなエリアです。

ウォーキング、ジョギング、サイクリング、グラウンドゴルフをはじめとするスポーツのほかに、釣りや水遊び、バードウォッチングなど自然とのふれあいを楽しむことができる等の空間として充実を図り、“いきいき健康日本”の三次市をめざします。



※この図は三次市三川合流部周辺河川環境整備計画
第3次重点プロジェクト完了後のイメージです。
実際と異なる場合があります。

目 次

9. 第3次重点プロジェクト -----	1
9.1 第3次重点プロジェクトの策定 -----	1
9.2 計画体系図 -----	2
9.3 第3次重点プロジェクトの概要 -----	3

9. 第3次重点プロジェクト

9.1 第3次重点プロジェクトの策定

平成22年3月に「三次市三川合流部周辺河川環境整備計画」を策定し、これまでの重点プロジェクトとして位置付けた事業に関して、概ね完了したことから第3次重点プロジェクトを策定し、さらなる事業実施を図ります。

1) 選定の視点

第2次三次市総合計画（平成26年3月策定・平成30年12月改定）

「市民が川と親しめる環境づくりの推進」

「自然体験が行いやすい環境づくりの推進」

三次市都市計画マスタープラン（平成28年3月）

「自然の恵みを活かし、水と緑を大切にすまちづくり」

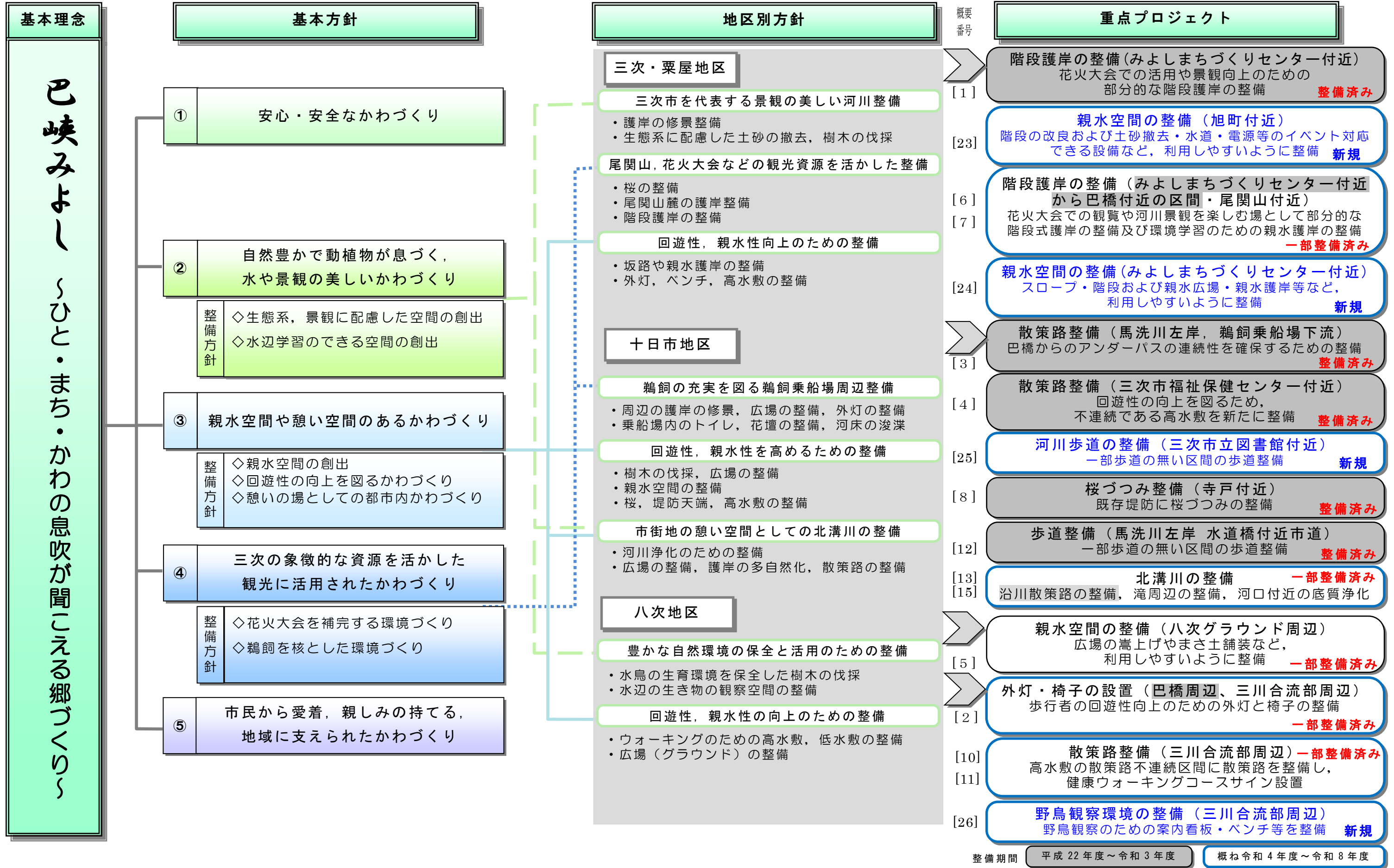
これらの計画を具現化するために、三次市を流れる江の川・西城川・馬洗川・北溝川にもっと親しみをもち、川の魅力の磨き上げによる、にぎわい創出が必要であるため「川を活かしたまちづくり」の視点から本プロジェクトを推進しています。

2) 計画の見直しにあたって （三次市かわまちづくり懇話会）

平成23年11月に、市民、関係団体、行政などが協働し、役割を分担することで江の川、馬洗川、西城川の合流部及び北溝川の個性を活かしたかわまちづくりや、地域交流の拠点となる、にぎわいのあるまちづくりに向けて推進することを目的に、三次市かわまちづくり懇話会（以下「懇話会」と称する）を設立しました。

懇話会では重点プロジェクトで実施する整備等への意見交換や河川一斉清掃などのソフト事業を行っています。令和2年度からは第3次重点プロジェクト策定に向けたアイデア出しや意見交換等の協議や検討を行ってきました。

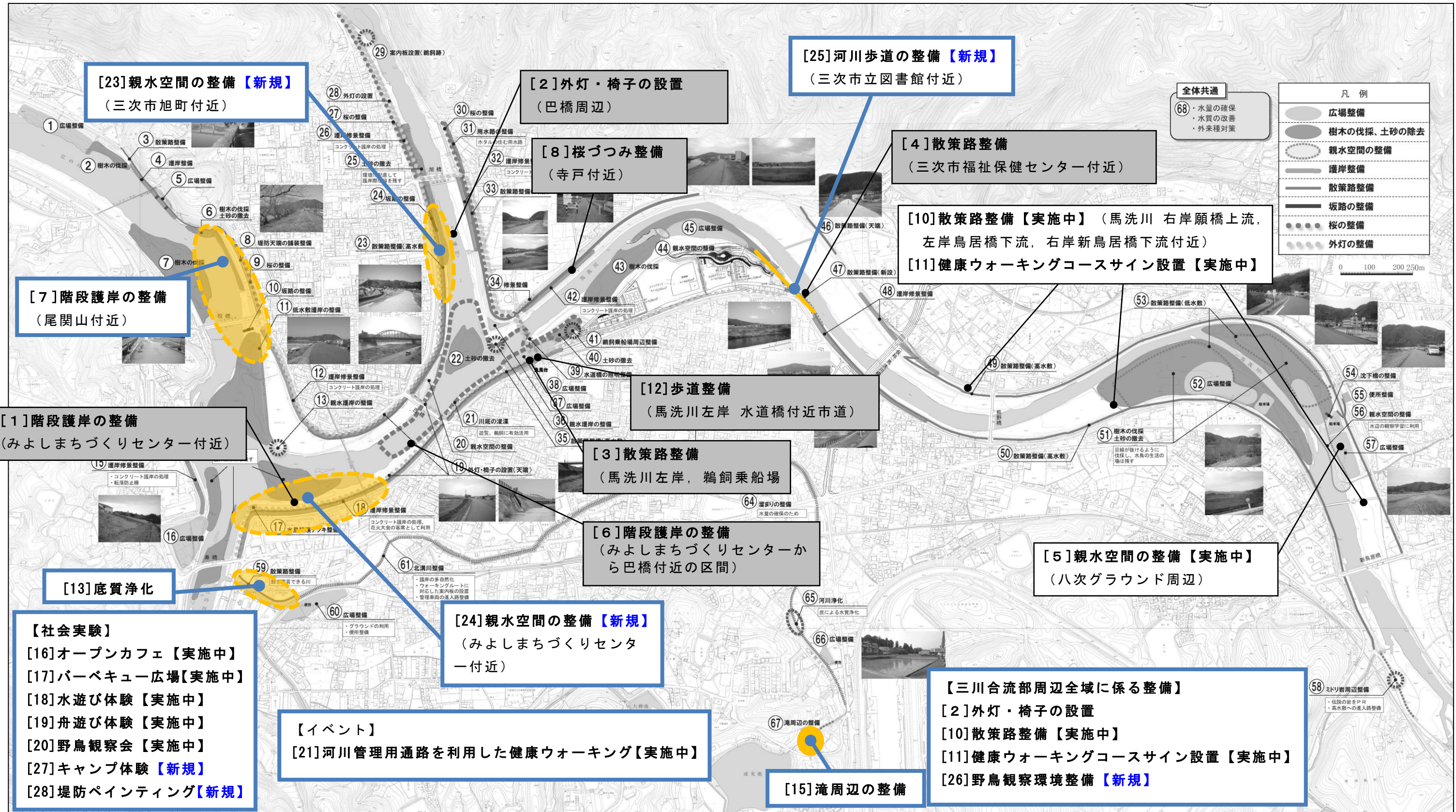
今後、第3次重点プロジェクト期間の5年間（令和4年度～令和8年度）の間に、本市の施策及び重点プロジェクトの成果等を考慮し、鵜飼環境の整備やコロナ禍で注目されたアウトドア、レクリエーション機能の充実等、次期計画に向けた整備内容の調整や社会実験による水辺の利用に関しての協議・検討を行い、川の個性を生かしたかわまちづくり、にぎわいのある街づくりを推進します。



整備期間 平成22年度～令和3年度 概ね令和4年度～令和8年度

9.3 第3次重点プロジェクトの概要

平成22年3月に整備メニューの中から当面事業実施を図るものについては重点プロジェクトとして位置付け、平成26年度までの間で概ね整備を完了しました（[1]～[5]）。その後、平成29年1月に第2次重点プロジェクトを策定し、整備を進めてきました（[6]～[22]）。今回、未整備の事業、および新たに実施する事業（[23]～[28]）について、第3次重点プロジェクトを策定し、事業実施を図ります。



第3次重点プロジェクト位置図

[7]階段護岸の整備（尾関山付近）

【整備内容】

既存の護岸を一部階段護岸に改修する。

【必要性】

- ・本市では、尾関山公園周辺整備事業を行っている。この中で桜等の植生管理計画を策定しており、尾関山にとって江の川は重要な景観要素である。
- ・尾関山と栗屋町の間を流れる江の川からは、尾関山や桜土手の見事な桜を船上から眺めることができる。かつて舟遊びをしていたこともあり、利用体制を整え、船揚場としても階段護岸を整備することで、多様な視点から良好な景観を楽しむことへの期待できる。
- ・日常的に川を眺めることや水辺にアクセスするための利用ができることは、まち歩きのゲート機能としても期待される。



利用イメージ

[10][11]散策路・健康ウォーキングコース整備（三川合流部周辺）

【整備内容】

高水敷の不連続区間を整備し散策路を確保する。

整備済みの健康ウォーキングコースの見直しを行い、サインを新設・更新する。

【必要性】

- ・健康ウォーキングコースは既に「川めぐり巴橋コース」、「馬洗川遊歩道コース」等、三川合流部関連コースが設定されているが、第2次重点プロジェクトの整備実績等を反映させたウォーキングコースの見直しを行う。
- ・見直しによって、新たにサインの設置・更新を行う。
- ・新たなウォーキングコースは野鳥観察コースとしての活用も期待できる。



サインの例



ウォーキングコースの例

[13][15]北溝川の整備

【整備内容】

滝周辺の整備，江の川合流付近の底質浄化を行う。

【必要性】

- ・北溝川は，住宅地を流れる河川であり，住民の生活に憩いや潤いを与える空間となっている。
- ・これまでに河川整備と併せて公園整備も行っているが，引き続き滝周辺の整備と底質浄化を行う。



[16]～[20] [27] [28]社会実験

【必要性】

- ・三川合流部を利用し楽しまなければ、水辺の環境を整備した効果は発現できない。三川合流部で楽しむためには、どのような活用方法があり、必要な機能や環境は何か、懇話会を中心に社会実験を行いながら検討し、人が集まる水辺空間の創造へつなげていく。
- ・今回の概ね5ヶ年の整備期間に、次の社会実験を行う。

[16]オープンカフェ

[17]バーベキュー広場

[18]水遊び体験

[19]舟遊び体験

[20]野鳥観察会

[27]キャンプ体験

[28]堤防ペインティング



オープンカフェの例
「かわまちカフェ（H29.11実施）」



水遊び体験の例
「川のプール（R元.8実施）」



舟あそび体験（R元.9実施）



野鳥観察会の例
「野鳥観察スタンプラリー（H31.3実施）」



キャンプ体験のイメージ
※埼玉県ときがわ町（出典：国土交通省・河川空間のオープン化活用事例集）



堤防ペインティングのイメージ
※瀬戸内かみじまアートプロジェクト（出典：上島町産業振興課／上島町観光協会 HP）

[21][22] イベント

【必要性】

- ・これまでに健康ウォーキング等を実施してきた。
- ・今後も整備施設を活用し、河川を身近に感じるイベントを実施する。

[23] 親水空間の整備（三次町旭町付近）

【整備内容】

旭町土手の階段改良・土砂撤去・イベント用装備（電源等）を整備する。

【必要性】

- ・当該地は西城川を間近に見ることができる場所であるが、河川へ向かう階段が狭く急であることに加えて、河川付近では土砂が堆積しているため利用が難しい。
- ・イベント実施にあたり、必要となる水道・電源等の装備が無い。
- ・イベント等での利用及び実施体制を整え、利便性や親水性を高めるための階段改良等の整備や土砂撤去、水道・電源等のインフラ整備によって、河川周辺のにぎわいを創出する。
- ・もののけミュージアムからの街歩きの拠点の一つとして活用する。



利用イメージ

[24] 親水空間の整備（みよしまちづくりセンター付近）

【整備内容】

みよしまちづくりセンター付近に親水広場を整備する。

【必要性】

- ・当該地は整備済み階段護岸もあり，利用環境は整っているが，河川へのアクセスは段差や雑草により阻害されている。
- ・当地を利用しやすくするため，スロープ・階段の整備及び親水広場・親水護岸等の整備を行い，河川周辺のにぎわいを創出する。

※令和元年度社会実験「川のプール」実施地であり，利用需要は見込まれる。



利用イメージ

[25] 河川歩道の整備（三次市立図書館付近）

【整備内容】

三次市立図書館裏の堤防に歩道を整備する。

【必要性】

- ・当該地は十日市親水公園と願橋の間の堤防であるが、歩道が無いため歩行者の直近を車両が走行している。
- ・この前後の堤防には歩道が整備されているため、本歩道整備により歩行者の安全が確保される。さらには、十日市親水公園と願橋を接続させることから、ウォーキングコース及び野鳥観察ルートとしての活用が期待できる。



整備済み歩道の例（馬洗川堤防線）

[26] 野鳥観察環境整備（三川合流部周辺）

【整備内容】

野鳥観察を気軽に楽しめる設備を整備する。

【必要性】

- ・三川合流部周辺は年間を通して多くの野鳥が生息していることから、野鳥観察に訪れる人も多い一方で、休憩用ベンチや案内看板等の設備が少ない。
- ・三川合流部周辺に野鳥観察スポットを設定し、案内看板・ベンチ等を整備することで、野鳥観察を気軽に楽しめる環境を整え、水辺のにぎわいを創出する。
- ・健康ウォーキングコースとの連携も期待できる。



野鳥解説看板の例（尾関山公園）